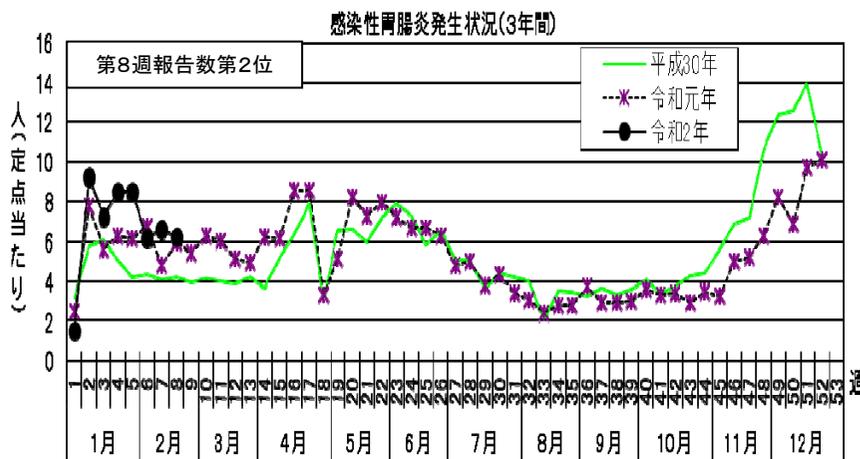
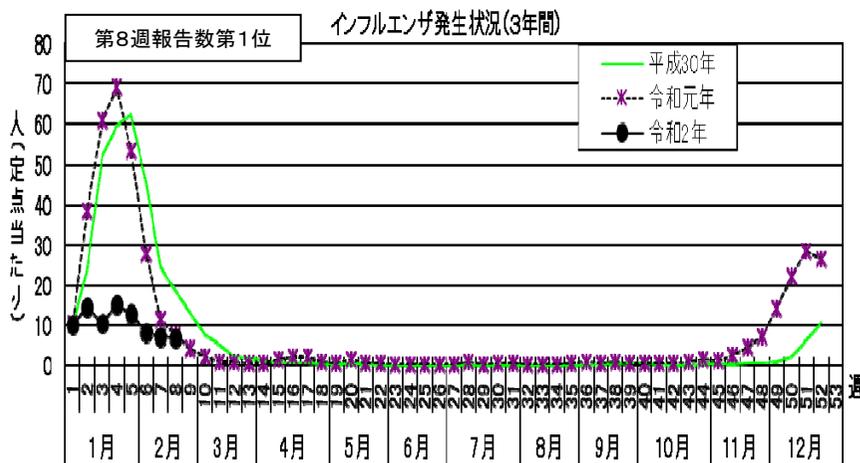


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年2月17日（月）～令和2年2月23日（日）〔令和2年第8週〕の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.87人と前週（7.13人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.24人と前週（6.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（3.73人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



集団感染を予防するために～新型コロナウイルス感染症～

新型コロナウイルス感染症は、現時点で、国内には大規模な感染を認める地域はありませんが、感染経路が明らかでない患者の散発的な発生は複数の地域で見られている状況です。

流行を早期に終息させるためには、いわゆるクラスターといわれる集団の発生を防止することが重要であり、基本的な予防を徹底することが大切です。今後の国内での感染拡大を最小限に抑える上では非常に重要な時期ですので、手洗いや咳エチケットなど対策を心がけてください。

新型コロナウイルス感染症とは？

【感染経路】

- ◆ 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫による「飛沫感染」
- ◆ ウイルスに触れた手で眼や口、鼻を触ることによる「接触感染」



【潜伏期間】

1～12.5日（多くは5～6日）

【主な症状】

- 発熱や呼吸器症状、強いだるさ（倦怠感）など
- ※1週間前後持続することが多い
- ※4日を過ぎても発熱が続く、特に1週間目においても発熱が続く場合、息が苦しい、呼吸器症状が悪化するなどを認めた場合には肺炎の合併が疑われる
- ※高齢者や基礎疾患のある方では重症化するリスクが高い

【治療】

対症療法のみ

基本的な予防と対応

- 手洗いの徹底
- 近距離で、一定時間、多数の人との接触（イベントなど）を避ける
- 症状がある方は咳エチケットの徹底
- 風邪症状がある場合は外出を避ける
- やむを得ず外出する場合は、マスクを着用
- 感染が疑われる場合には、直接医療機関を受診せず、帰国者・接触者相談センターに相談する



※帰国者・接触者相談センターの連絡先は川崎市ホームページを御確認ください。